

# 水害碑

一昭和28年 南山城水害一



## 南山城水害 記念碑

旧 櫛倉村 平尾地区（現 木津川市）昭和30年建立  
平尾地区の住宅地の中に建立されています。

殉難者の氏名とともに、死者24名、流出家屋19戸、全壊家屋30戸との人命と家屋の被害、田畑の耕地の被害などが記され、被害の大きさが示されています。



## 災害記念塔

旧 櫛倉村（現 木津川市）昭和34年建立  
南綺田耕地整理組合によって建立されました。

民家から外れた田畑の中にあります。「ないと思う不時災害」と大きく記され、天神川や不動川の堤防崩壊により田畑が砂礫などで埋没したことによる耕地、水路、道路の被害状況と、「住民不屈の協力」によって復旧工事が完成したことが記されています。

南山城水害は、京都府南部、滋賀県南部、三重県北部を襲った豪雨による災害です。  
8月14日の深夜から15日未明にかけて、寒冷前線による豪雨に見舞われました。総降雨量は、京都府域での400mm以上を始め、滋賀県や三重県でも200、300mm以上の降雨が発生しました。この豪雨により、各地で河川の氾濫による洪水と土砂流出による被害が発生し、死亡者が、京都府下で221名、滋賀県で45名、三重県で14名のほり、道路や鉄道の寸断、田畑の埋没・流失などの大災害となりました。大きな被害になった要因は、降雨量が大きいこと他に、土砂災害が関係しています。この地域は花崗岩が風化した地質が広く分布し、山腹が崩壊しやすい地域であり、大量の土砂流出が被害をさらに大きくしました。降雨については、「集中豪雨」の言葉が使われたのはこの災害が初めてです。また、土砂流出の原因となった、地域で一面に発生した山腹の崩壊は「ゴジラの爪痕」と表現されています。  
被害の詳細については、「水が語るもの」13号、15号に、宮井宏博士が生々しい記事を書かれていますので、ご参照ください。  
このような未曾有の被害であったため、被害の記憶を伝承し、再度の被害を小さくするために多くの災害碑が建立されています。取材でも、8箇所の災害碑が確認されました。いずれも、被災者の慰霊、災害の状況を紹介した上で、被害復旧の自覚が立った時点で、碑を建立し、災害を忘れず、今後に備えることの重要性が書かれています。郷土を思う心が伝わってくる取材でした。現地取材により、そのいくつかを紹介します。



## 水難記念

井手町 玉水駅 昭和56年建立

南山城水害時に、駅から500m離れた玉川から流出してホームに残された巨岩（6トン）を利用して造られた碑です。  
平成29年からの駅の橋上化に伴い撤去が予定されていましたが、地元住民の要望により移設の上、駅外からも見える現在の位置に保存されています。洪水の流れの力を示す貴重な碑と考えられます。



天井川の玉川の下を通るJR奈良線



## 南山城 水害記念碑

旧 櫛倉村 北河原区（現 木津川市）昭和38年建立  
市街地の公民館の敷地内にあります。

取材時の地元の方によると、この近辺は、元来土壌が低く、水害を受けやすいところであったが、南山城水害時には、一面の土砂に覆われたとのこと。また、全体的に大正池のダムの影響が大きかったとのこと。碑には、鳴子川の北河原橋の堤防の決壊により被害が発生したことや、7人の犠牲者名とともに、「犠牲者の霊に捧げる為には有史以来の惨禍を後世に伝える」と記されています。



## 山津波災害記念碑

旧 島ヶ原村（伊賀市）昭和44年建立  
災害を免れた島ヶ原の観音提寺正月堂の門前に建立されています。人が多く集まるこの場所が設置場所として選ばれたとのこと。被災の状況と殉難者の氏名とともに、「不断の対策を怠ることなきを念じ災禍の恐るべきを永く伝えんとしてこの碑を建つ」と書かれています。



観音提寺 正月堂 修正会  
天平時代創始の寺院です。近所から多くの参拝者が集まる2月の修正会では、火と水の流行・遠行法など、奈良時代の古密教の行法を伝える古儀式が行われます。この場所は、周辺部の被災にも関わらず、背後の山が安定していたため南山城水害の被害を免れています。



## 南山城水害記念碑

南山城村 昭和31年建立  
木津川の支川の畔の小高い場所に建立されています。この場所は、碑の前の商店とともに被災はなかったとのことですが、他の沢筋は大きく被災したとのこと。52人の犠牲者の名前や被災状況とともに、「記念の碑を建立し災禍の惨状を記して後世に遺さん」と記されています。

## 水難者慰霊碑

和束町 昭和33年建立  
昭和33年に、氾濫した和束川のほとりに建立されましたが、その後、平成25年に管理を考慮して、小高い場所に移設されました。取材時にお目にかかった婦人から、災害で同級生が亡くなり、碑に名前が刻まれていることや、管理が十分行われていることの感謝の意をお聞きました。ここでも、111人の犠牲者の氏名や被害状況と共に、復興の感謝と「茲に碑を建立して殉難の諸霊を弔い災禍の記録を後の世に残す」と記されています。なお、当初の碑があった和束川沿いの低地には、水位標が残されています。